

会議録

会議録	平成27年度 第2回豊田市公共交通会議
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>【協議案件】</p> <p>（1）豊田市公共交通基本計画について</p> <p style="padding-left: 2em;">◆目標値の設定・計画の評価指標・個別施策の設定・ネットワークほか</p> <p>（2）基幹バス 特別運賃の設定について</p> <p>4 その他</p> <p style="padding-left: 2em;">次回、会議の開催予定について</p> <p>5 閉 会</p>
日 時	平成27年8月26日（水） 13：30～15：30
場 所	豊田市役所 南庁舎7階 南73委員会室
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】 野田 宏治 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>萩野 弘 (豊田工業高等専門学校)</p> <p>古橋 靖弘 (国土交通省中部運輸局愛知運輸支局)</p> <p>小久保 信 (愛知県振興部交通対策課) (代理：瀬古)</p> <p>高嶋 敏博 (愛知県豊田加茂建設事務所)</p> <p>庄田 元久 (愛知県豊田加茂建設事務所足助支所)</p> <p>三浦 昇 (豊田警察署交通課) (代理：緒方)</p> <p>近藤 直人 (豊田市都市整備部)</p> <p>土居 友二 (豊田商工会議所)</p> <p>小澤 伸也 (豊田市社会福祉協議会)</p> <p>阿羅 勝彦 (豊田市区長会)</p> <p>二宮 京市 (豊田市高齢者クラブ連合会)</p> <p>澤田 恵美子 (豊田市消費者グループ連絡会)</p> <p>町田 利雄 (豊田市PTA連絡協議会)</p> <p>加藤 憲治 (愛知県タクシー協会)</p>

	<p>大久保 彰 (愛知県交通運輸産業労働組合協議会) (代理: 田村)</p> <p>今川 孝英 (名古屋鉄道株式会社)</p> <p>近藤 博之 (名鉄バス株式会社)</p> <p>境 政義 (豊栄交通株式会社)</p> <p>安達 雄彦 (愛知環状鉄道株式会社)</p> <p>【事務局】 豊田市 都市整備部交通政策課</p>
資 料	<p>1. 次第・配席図</p> <p>2. 資料1～2: 豊田市公共交通会議 平成27年度第2回会議資料</p>

(要約)

3 議事

【協議案件】

(1) 豊田市公共交通基本計画について

◆豊田市公共交通基本計画について

- 事務局 資料1に基づき説明。
- 委員 現基本計画の目標値である利用者数2倍の根拠は何か。また、それが達成出来ないことでどういう問題が生じるのか。
- 事務局 当時期待を込めて大きな目標値を掲げた。達成出来ないことでの問題は解くに生じないが、新計画においては施策の積み上げで目標値を達成出来るようにしたい。
- 委員 総合交通体系の中で公共交通の位置づけをどう考えているか。
- 事務局 将来にわたって公共交通利用は減少するという推計が出ており、公共交通利用を押し上げるために転換を促していきたい。
- 委員 公共交通利用を増やすためには、路線周辺に開発を集中する方策も考えられるが、そういう施策も含めて検討するのか、利用促進を中心に行うのか。
- 事務局 国の政策の流れも踏まえながら、居住地選択やライフスタイルの変化といったものも含め、幅広く検討していきたい。
- 委員 公共交通を使った観光促進というのは新たな視点だが、観光を重視することで市民の利用に影響を及ぼすと支出増加にもつながりかねないと懸念されるがどう考えているか。
- 事務局 日中や土休日の利用増加と、地域活性化の支援につながることを目的としている。もし、観光客の増加によって増便などが生じたとしても、現状のサービスレベルは不十分であると考えており、結果的に市民の利便性向上にもつながると考えている。
- 委員 今まで様々な施策を行ってきたと思うが、新計画のもとで何を継続し、何を新たに行うのか。
- 事務局 前回資料に一覧を提示している。パークアンドライドやエコ交通、共通ICカードの導入など効果が出ているものは継続をしていきたい。
- 委員 バス利用を増やすためには、バス停を密に置き、本数を増やすなどサービスの向上が必要。また、高齢者が利用しやすい環境の整備や、企業とタイアップした利用促進も必要ではないか。
- 事務局 カバー率の向上については検討を行っている。将来的なバスサービスの維持のためには、利用者の増加による質の向上という正のスパイラルが必要と感じている。高齢者については健康という視点も入れながら、地域活動と連携していくことも考えている。企業とのタイアップについては愛知環状鉄道の複線化など実績がある。今後、土橋・トヨタ記念病院線についても車両の大型化による輸送力増強が可能となるので、企業従業員が利用しやすい環境を作っていきたい。
- 委員 公共交通以外も選択できる層と、公共交通しか選択できない層がいる。それぞれに対して施策を考える必要があるのではないか。
- 事務局 それぞれに配慮した施策を考えていきたい。

- 委員 車いす利用者の利便性について考慮してほしい。
- 事務局 了解した。
- 委員 観光周遊ルートについては、ターゲットをどこに置いているか。
- 事務局 市内・市外を含め広く考えているので、幅広にPRしたい。
- 委員 観光周遊ルートの利用を増やすためには、現状の路線やダイヤでは不便ではないか。
- 事務局 一日乗車券のようなインセンティブを設けることと、待ち時間を活用して行き先で楽しめるような提案をしていきたい。
- 委員 基本方針の評価指標に歳出の項目があるが、交通政策によって健康増進するなど他部局での支出が減った場合、反映されるのか。
- 事務局 市歳出全体に占めるバス運行経費の割合を想定している。
- 委員 基本方針の評価には市民意識調査の結果を活用してはどうか。
- 事務局 毎年評価することを考え、Eモニターを活用した独自調査を検討している。
- 委員 高齢者が増えていくと、免許返納などで外出の機会が減少する。地域バスは地域内の運行なのでなかなか利用が進まない。市の中心部に行けるなどネットワークとして整備してもらいたい。
- 事務局 地域バスは地域内運行という原則があるが、柔軟にすることを検討している。ただどこまでも行けるようにするというわけではないので理解を願いたい。
- 委員 公共交通空白地区では、移動の選択肢がなく苦しんでいる人がいると思われるので、なるべく空白が少なくなるように取り組んでほしい。
- 事務局 了解した。
- 委員 豊南地区から長興寺地区、スカイホールにかけて公共施設があるが、公共交通がない。飲食店等の集積もあるので、交通手段を望む声もある。
- 事務局 長興寺地区についてはバス路線の検討を行ったが、基幹バスほどの需要はないことが明らかになった。ただ、公共施設も多く立地していることから、政策的な路線開設の必要性について検討していく。

(2) 基幹バス 特別運賃の設定について

◆とよたおいでんバス 特別乗車券の販売について

- 事務局 資料2に基づき説明。
- 委員 定期券販売所で日付指定では購入しにくいのではないか。
- 事務局 目的が平日昼間、土休日の利用増であり、一般定期からこちらに移られては意味が無い
ため、日付指定での販売としている。今後、利用実態に応じて使いやすくなるように改善はしていきたい。
販売箇所については、当初車内も検討したが乗務員の負担増につながるため今回は定期券販売所に限っている。販売箇所のPRで対応したい。
- 委員 5人まで使えるというが、2人で出かけるケースが多いのではないか。そうすると価格が高いように感じられる。
- 事務局 将来的に内容について検討したい。

○委員 観光周遊ルートにも関わることなので、販売時にモデルルートなどを提示してもらえると良いのではないか。

○事務局 検討する。

4 その他

○事務局 次回会議は平成27年10月28日 13:30～の開催を予定している。

以上